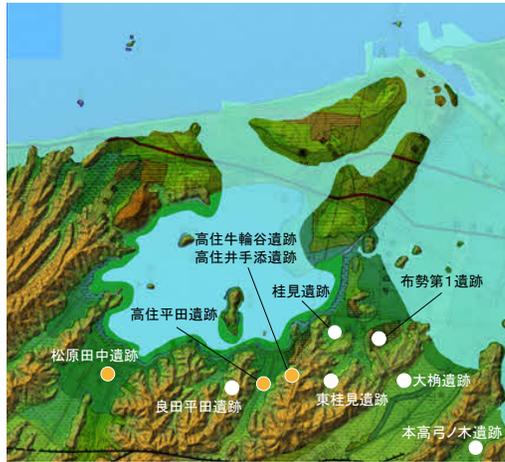


【湖山池の各時代の変遷】



縄文時代前期～中期
(約 8,000 ～ 6,000 年前)



縄文時代中期～晩期
(約 6,000 ～ 2,500 年前)



弥生時代
(約 2,500 年～ 1,800 年前)



古墳時代
(約 1,800 ～ 1,300 年前)

湖山池は気候や環境の変化によりその姿を変えてきました。

【縄文時代】

縄文時代のはじめ頃は、気候温暖化により海面が大きく上昇し、海が内陸まで入り込んでいました。(縄文海進) この時代は湖山池は存在せず、内湾であり、海岸部の遺跡からは漁撈をしていた痕跡が見られます。

【弥生時代】

縄文時代から弥生時代にかけて、徐々に海が後退していき、弥生時代には湖山池の姿ができあがりました。(弥生海退) この結果、湖山池周辺には湿地ができ、そこで「米づくり」が始まります。

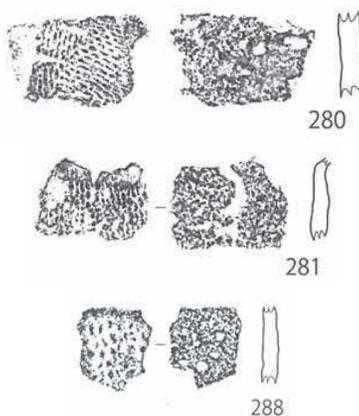
【古墳時代】

古墳時代になるとほぼ現在の湖山池の形になり、周辺では引き続き「米づくり」が行われ、ムラのリーダーの古墳も造られるようになります。

高住宮ノ谷遺跡・高住平田遺跡 (縄文時代前中期)

縄文時代前中期頃、内湾だった湖山池の海岸部にあった高住宮ノ谷遺跡、高住平田遺跡からは、縄文土器の破片、魚の網の錘に使う石錘 100 点以上見つっています。

このエリアでは、縄文時代の早い時期から人々が生活し、海岸部では漁撈をして生活していたことが分かりました。



高住宮ノ谷遺跡出土
押型文土器



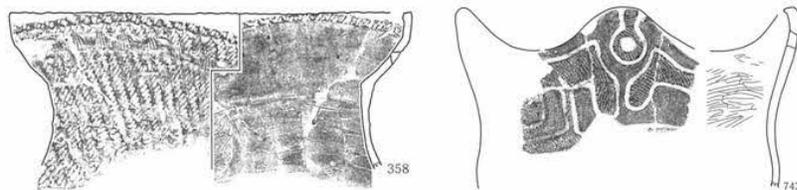
高住平田遺跡出土石錘

高住井手添遺跡

(縄文時代中・後・晩期、弥生時代)

〔縄文時代〕

潟湖に近い状態であった湖山池から少し内陸部に高住井手添遺跡はありました。遺跡内には複数の自然河川が見つかり、13点ものカゴが出土しました。縄文人たちは、この河川にカゴの材料であるヒノキのヒゴを漬け、加工しやすくしていたようです。



縄文時代中期（左）と後期（右）の土器

〔弥生時代〕

湖山池の水域が狭くなったため内陸となった高住井手添遺跡の弥生人たちは、「米づくり」のためと思われる水利施設を造っていました。この施設からは完成前の鍬のパーツが見つかります。これも加工しやすくするため、水漬けにしていたと考えられます。



縄文時代晩期のカゴ



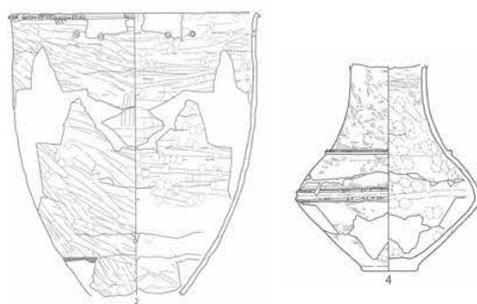
弥生時代の水利施設（溝）

本高弓ノ木遺跡

(縄文時代晩期、弥生時代、古墳時代)

〔縄文時代・弥生時代〕

内陸部にある本高弓ノ木遺跡では、「米づくり」の技術とともに入ってくる壺などの土器（遠賀川式土器）が、縄文時代晩期（突帯文土器）の土器と一緒に見つかります。このエリアには、早い段階に「米づくり」が伝わったと考えられます。また、遺跡内には貯木場跡も見つかっており、木を切り出し、貯木し、加工するという技術が高かったと考えられます。



縄文時代と弥生時代の過渡期の土器セット
縄文土器（左）と弥生土器（右）



鉄歯付穂摘具

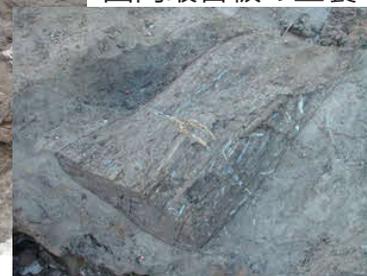
〔古墳時代〕

高度な土木技術を使った大規模な水利施設工事跡が見つかりました。この水利施設は水田に河川から水を引くためのものと考えられます。何度も造りなおされていることからこのエリアで生活する人々にとって重要な施設であったと思われます。この施設の工事には国内最古最古級の「土囊」が使われていました。



水利施設跡

国内最古級の土囊



鳥取県埋蔵文化財センター

鳥取県鳥取市国府町宮下1260 (0857) 27-6711
maibuncenter@pref.tottori.lg.jp